

# 審査公報掲載文原稿用紙

受付年月日 年 月 日



最高裁判所判事  
岡 正晶  
昭和三年二月一日生

略歴

香川県綾歌郡(現高松市)国分寺町という段々  
状の小さな田んぼが基なる山あいのかたな  
地域で、中学校の数学教師の次男として生ま  
れ育ち、岡町立岡分等南部小学校、岡町立岡  
分等中学校(仮式テニス部)を経て、香川県  
立高松高等学校(バドミントン部)を卒業  
昭和五年 三月 東京大学法学部卒業  
同年 四月 司法修習生(三十四期、大阪で実務修習)  
平成一六年 六月 弁護士登録(第一東京弁護士会)  
一七年一〇月 株式会社ニフコ社外監査役  
一〇年 四月 東京大学法科大学院講師(側近処理研究)  
二一年一月 法務省法制審議会民法(債権関係)部会委員  
二二年 七月 日本弁護士連合会側近法制度検討委員会委員  
長  
一三年 六月 全国農業協同組合連合会経営管理委員  
一六年 四月 事業再生研究機構代表理事  
一七年 四月 日本弁護士連合会副会長  
同年 六月 第一東京弁護士会会長  
一八年 八月 株式会社三井住友銀行社外監査役  
三〇年 六月 日本公認会計士協会品質管理審議会委員  
令和 元年 六月 住友生命保険相互会社社外取締役  
三年 九月 株式会社三井住友銀行社外取締役  
最高裁判所判事

最高裁判所において関与した主要な裁判  
最高裁判所就任後日が続いたため、特に記すべきものはありませ  
ん。

裁判官としての心構え

日本国憲法七六条三項の「すべて裁判官は、その良心に従ひ独  
立してその職権を行ひ、この憲法及び法律にのみ拘束される」を  
常に念頭に置き、仕事をするとときの根本原理とします。  
そして、従うべき「良心」の言葉、向上に日々努め、「独立」  
はするが独善に陥らないよう常に自戒し、「職権」行使に当たっ  
ては「記録・資料をよく読み、自分の頭でよく考え、わかりやす  
く自分の意見を言い、同僚裁判官と多面的で深みのある熟議を尽  
くす」ことを信条に、一つ一つの事件に全力で取り組みます。  
また同憲法八一条の「最高裁判所は、一切の法律、命令、規則  
又は処分が憲法に適合するかしないかを決定する権限を有する終  
審裁判所である」を心に刻み、この憲法上の職責を適切に全うし  
ます。

趣味など

ここ三年くらいですが、山歩き(トレッキング)を、シーズン  
には月二回を目途に楽しんでいます。丹沢・箱根、奥多摩・秩父  
など関東周辺の山が中心ですが、羊蹄山・斜里岳・黒岳・屋久  
島(縄文杉)、妙高山なども印象に残っています。  
三〇年以上続いているものとして、チェリッシュ(毎年一〇〇  
個くらい積めます)、バラ(今の黒バラはパルメイアン、雄鶏菊  
を定着としたプランターでの花栽培があります。二〇二二年は、  
大豊生しました。  
弁護士時代、日本民事訴訟法学会、租税法学会、金融法学会に  
加入し、研究報告もさせていただきました。

裁判官 岡 正晶

## 備考

- 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。
- 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。